

更生保護への道

丹 羽 演 誠

(八風園理事長)

平成二年の年賀ハガキの一枚に、思いもよらない添書きがありました。その年賀は、大分保護観察所長の清水和夫先生からのものにて、添書は、私は乾先生の下で、直属の上司として、教をいただき、又大分に転任の折も丹羽先生を訪ねる様に云われていました。

清水所長は昨年四月大分に着任し、お会いする機会があったのですが、互に縁が^縁なく今日になりました。

丁度、佛教大学から乾先生の追悼号を出版するので一文書く様に依頼があったので、先生への報恩の思いで筆をとることにいたしました。

早速、大分保護観察所に清水所長を訪ねました。所長は大学を卒業して、最初に就職したのが大阪保護観察所にて、観察官として一日を始めました。当時、乾先生は、観察課長として、指導に当って頂き、親切に

観察のあり方、保護司との連絡、対象者との面接、を教えて頂き、保護司との協力など、又、新しき本の研究は特に先生の特色でした。観察官として基本を教えて与えていただいたことに感謝しています。当時、大阪は一つの観察所にて対象者が多く、課長の机上はいつも、書類の山積でした。その記録を丹念に読まれる姿がなつかしいとのこと、先生は、更に近畿の保護観察所長、更生保護委員を歴任して、佛教大学の方へ教鞭をとられました。

保護司は犯罪者や非行少年の保護観察対象者を更生へと導くのが本意です。毎月本人に面接家庭の情況、友人関係、職の問題を毎月一回、月報を観察所に報告するのです。時折、難問題が起り、東奔西走することがあります。

八風園の訪問記事を読みつゝ、感じたことは、この月報についての、先生の永い経験のその姿が、そのまゝに記録として書かれている様に感じてなりません、精細にして、あらゆる角度から見、それを統括し、想像もなくありのままに書かれていること、その観察の目、その把握、先生でなくては出来ないのではないかと思ひ、二度三度、繰返し読み、その口調も観察記録と同じ様に思ひました。

八風園に訪問されたのは二月の雨の日でした。先生は老牀のために奥様も同伴でした。園内を案内する

と、何枚も写真をとられており、誠に町重でした。

夕食を海岸の宿にお願ひし、二月の荒海の波を聞きながら、父、丹羽貫誠の更生保護に熱心だった話や、福祉について語りました。私自身、乾泰正先生の名は知っていましたが、いつの頃から記憶にありません。父の賀状の中で知ったかも知れません。然し、更生保護に、生涯を託した先生の人生を、訪問記の中に、感じましたことは、互に、社会福祉に相通ずる心があったことによるのではないかと思ひます。

先生の冥福を祈り十念いたします。